

2016年6月27日

第209回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会例会議事録

宇佐神 正明

第209回例会 6月27日(月) 18:00~20:00 学士会館308号室

出席連絡：佐藤陽一、辻井清吾、古山英二、山本毅、宇佐神正明

欠席連絡：新川、望月、長塚、村山、

次回予定： 第210回 7月25日(月) 18:00~20:00 学士会館308号室

一、確認事項：

- 1) 学術大会の報告：古山、山本両氏より、学術大会についての報告をいただく。
 - ① 17日(金)に行った、ニッカウキスキーの仙台工場見学と東日本大震災の跡地、閑上(ゆりあげ)地区(宮城県名取市)における津波と復興の状況の視察についての報告、18日の総会については、出席者約50名であったとの報告があった。
 - ② 学術大会は、「地方創生」が統一テーマで、古山氏により出席された報告について所感が述べられた。
- 2) 望月「理念哲学部会編『21世紀の経営倫理』目次案」の進行状況の確認と検討。
了解事項：各項目に関し、8000~10000字を目安に作成することを確認。
- 3) 7月25日は、『21世紀の経営倫理』の原稿に関し、古山氏が報告することを予定。
8月以降の予定については：7月例会で村山部会長の出席のもと決定する

二、本日の発表(宇佐神)：

準備したペーパー(「経営倫理」定義の試み)をもとに、20世紀後半の精神分析学の成果とその社会形成上の意義について考察し、報告した。さらに、和辻の倫理学上の意義を明らかにするとともに、金子の21世紀の人類に対する倫理的貢献を明らかにしようと試みた。その要旨を「20世紀後半の精神分析学の成果と和辻・金子の倫理学の意義」と題し、資料③として添付します。添付資料 ①フロムとマズローの資料、②エリクソンの図式、③「20世紀後半の精神分析学の成果と和辻・金子の倫理学の意義」

以上